

## 横浜キャンパスの巻

横浜市営地下鉄「中川駅」から徒歩5分、郊外の素晴らしい自然環境の中に位置する横浜キャンパス。環境情報学部を擁するこの校舎最大の特徴は、日本の大学としては初めて国際環境規格ISO14001の認証を取得した環境配慮型の施設である点です。一方で最新の通信環境やマルチメディア設備も備えており、「エコキャンパス」&「サイバーキャンパス」として注目を集めています。



建物に囲まれた広場にある情報彫刻家・菊竹清文氏が制作した赤いモニュメント「ACCESS」は、横浜キャンパスのシンボルになっています。人感センサーを内蔵し、人の動きがあると頭頂部が回転する構造になっています。

## 2号館 (図書館・情報基盤センター)

先進のシステムを完備し、マルチメディア教育の拠点となる情報基盤センター。無線LANの完備や高性能PC約500台を備え、自分のPCを持っていなくてもネット環境や高機能ソフトが使えます。また約100,000冊の蔵書数を有する図書館には、研究に必要な専門的な文献はもちろん、音楽CDやDVDなどの視聴覚資料も多数所蔵されており、勉強はもちろん息抜きにも最適の空間です。



「授業以外の空き時間はほとんどここにきています。位置情報ソフトやフォトショップなど、家にはない高機能なソフトも自由に使えるのでとても助かります。夜の10時まで使えるのも魅力」と言うのは環境情報学科2年の三浦洋介君。

### メディアホール

誰でも自由に使用することのできるPCが多数用意されているメディアホール。マルチメディア制作に必要なソフトも充実しており、ゆったりとした空間の中、お互いに意見を出し合いながら課題制作に取り組む姿が見受けられます。市価よりもかなり安く利用できる大型プリンターなども設置されています。



### 映像メディアルーム

「サイバーキャンパス」の中核を担う演習室。バーチャルシステムを備えたスタジオやプロフェッショナル用の編集機材が完備され、本格的なテレビ番組制作も可能な映像メディアルーム。ハイレベルな映像コンテンツの開発に力を発揮します。



入り口ホールに設置されている大画面DLPマルチモニター。休講情報や施設の利用状況、学内イベントの告知などに使われています。



木の温もりを感じるCIS談話室。月～金は9時から22時、土は9時から17時まで利用できます。居心地の良い室内は、学生達の憩いの場として多目的に使用されています。



一般にも開放されている遊歩道。竹林があり、一般参加者を募ってタケノコ掘りや竹の間伐体験も。切った竹は竹炭にして大学祭でも販売します。(左)

田中章教授の研究室が企業と共同開発したピオトープシステム。中庭に設置されており、太陽光エネルギーで水を循環させ自然のままの環境を作り出し、ヒートアイランド対策の研究などに用いられています。2009年度エコプロダクツ大賞を受賞。(右)



ゴミの分別ルールはとて細かく、慣れないうちほどまどろっこしい。ペットボトルのリングを切り取る「ペットボトル分別器」も置かれており、徹底したリサイクルを目指しています。